

私の目指す道徳教育

93E059 齋藤知論

私の目指す道徳教育とは、「決して押しつけにならない事をする」である。私の受けた道徳の授業は、副読本を読んで、先生がその事についてはなし、生徒に意見を述べさせたり、作文を書かせて提出させ、よい意見は、後になってからプリントにし、配って終わるようなものだった。そのような授業は、はじめたその場から、先生が生徒に何を言わせたいかが、あまりにもわかるような物ばかりだった。そこで、私は、裏をかくことを言って困らせたものだった。

もっともその様に、道徳の授業をする先生の方が珍しく、私の記憶では、ほとんどの道徳の授業は、テスト勉強や、他の教科の補習に当てられていたものだった。

このように、今の道徳教育では、ほとんど授業を行なわなかったり、行なったとしても、はじめから、言いたい事が分かってしまうようなものばかりではないだろうか。このような事では授業を行なう意味がないのである。すべて生徒は、押しつけられているとしか思わないのである。そこで、私は、生徒に作業をさせることによって、言いたい事を考えてもらう、と言うことにした。

今回の授業で、私が選んだ主題は、「公共のマナー」である。もうすこし説明をくわえると、公共のマナーの特に、「ごみ問題を絡ませて考えて見よう」と言うことなのだが、ここで、道徳に使う副読本を持って来て読ませて、生徒に意見を述べさせるのでは、次の授業が始まってしまったら、もう完全に頭のなから消えてしまうことだろう。それでは、どうすればよいのだろうか。それを、解決する方法に、三つのキーポイントをあげよう。それは、「作業、考える事、そして納得」である。この最後に述べた、「納得」この事が一番大事な事である。英語でも数学でも、暗記だけでは駄目で、納得しないと自分の物にできないのと同じく、道徳でも、作業をさせ、考えさせ、そして、納得させ、それを実践へつなげさせるのである。

私のつくった道徳指導案では、全体が二時間である。はじめの一時間目の授業では、大きく二つに分けているわけだが、

1. 教師が、ごみとマナーについて話し、生徒に問題提起をする。
2. 生徒をグループごとに分け、討論、発表させる。

そして、つぎの授業までに、自分の周辺のごみ、つまり、駅、スーパー、コンビニ、ごみステーション、自宅などのごみの管理を調べさせ、レポートを提出させるのである。

この時点では、先程述べた、三つのキーワードの、「作業、考える事」を実行した事になる。

そして、二時間目の授業のほうだが、それは、このレポートと一緒に提出した、道徳指導案を見てもらえば、だいたいの内容はわかるだろう。その中でも重要なのが、ごみの資料を配った後の説明である。これは、生徒から集めたレポートと、その後配る、ごみの資料に関連性を持たずと言うことである。もし、ここで生徒たちから集めたレポートに、後に配るごみの資料と関連性が無かった場合は、教師自らの意見も、生徒たちのレポートから、引き出して書いておかなければいけない。ここで注意しなければいけないのは、次のごみの資料のために、教

師の意見を全面に出してしまわないこと。そして、できるだけ多くの生徒の意見を、次の資料に関連づけるということ、である。これは、できるだけ多くの生徒の意見を使うことによって、多くの生徒が、問題を自分に当てはめて、これからの授業を考え、進めてくれるからである。

これにより、生徒に三つ目のキーポイントの「納得」を、実行することができるのである。もう少し詳しく説明を付け加えると、生徒たちのレポートから、今何が自分たちに必要かを考えてもらい、そして、その結果、出た答えの意味付のため資料を使うのである。そして、生徒に納得してもらおうと言うわけである。

今まで述べて来たように、すべて、教師が教えるのではなく、生徒たちに、作業させ、考えさせ、そして、納得させないことには、何も生徒の心には、残らないのである。教える側も、他の教科と違い、知識があるだけでは、何もできないわけだし、日々変化する時代の中で、何が、良い事か悪い事かわからなくなってしまうがちになる。そこで、道徳教育には、日々の工夫と、変化が必要なのである。

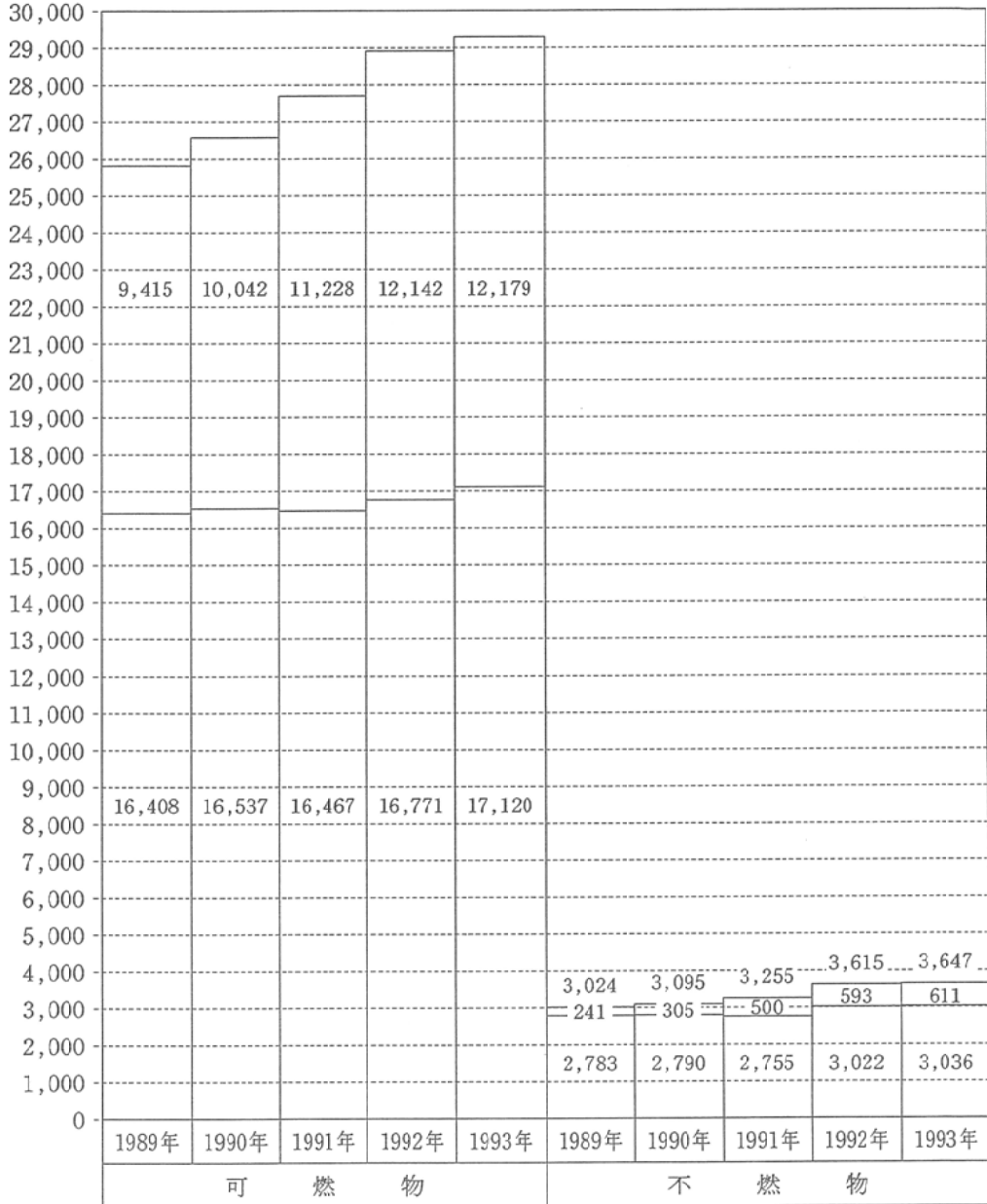
なお、二時間目に使用を予定している、ごみの資料は、次の用紙に記載してある。

資料

新発田市年度別ごみ収集状況

□ 事業系
□ 家庭系

(単位：t)



資源ごみの回収状況（1991年5月から実施）

品 目	1991年度回収量(kg)	1992年度回収量(kg)	1993年度回収量(kg)
新 聞	107,130	107,790	153,730
雑 誌	65,630	75,460	118,460
段 ボ ー ル	32,140	39,130	39,910
紙 類 の 合 計	204,900	222,380	312,100
空 ビ ン	141,810	163,720	162,070
合 計	424,610	608,480	786,270

ごみ処理経費の状況

	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年
塵芥処理費（千円）	403,537	438,724	455,958	495,714	517,339	587,970
収集委託料（千円）	127,584	137,911	149,371	180,270	183,507	188,907
可燃ごみ	92,160	99,644	107,742	118,613	120,294	122,488
不燃ごみ	35,424	38,267	41,629	46,724	48,340	51,257
資源ごみ	—	—	—	14,933	14,873	15,162
処分負担金（千円）	273,056	298,105	297,084	311,574	328,589	390,887
可燃ごみ	206,831	227,963	224,723	245,180	259,714	303,642
不燃ごみ	66,225	70,142	72,361	66,394	68,875	87,245
日常生活に伴うごみ処理コスト						
一人当たり(円/人・年)	5,125	5,557	5,761	6,241	6,476	7,306
世帯当たり(円/世帯・年)	18,179	19,569	20,095	21,631	22,221	24,875